

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

高元俊彦病院長

「新医療センター」の実現に向けて語る

昨年10月、脳出血を起こした東京都内の妊婦さんが7つの病院に受け入れを断られました。最終的に三次医療機関の都立病院が受け入れ、子どもは助かりましたが、母親は亡くされました。母親と子どもの2つの命を救うためには、産婦人科と脳神経外科がお互いにすばやい連携を取り合わなければならぬ極めて困難な事例でしたが、このことにより私たちの身近にもある深刻な医療危機の実態が浮き彫りとなりました。

このような事態を受け、平成21年2月に開催された市議会定例会において、木下市長は草加市における救急医療の一層の充実を目指すという施政方針をかけたましたが、その具体的な展望に関心が集まっています。今回は議会答弁を行った高元俊彦病院長が考える「救急医療に関わる市立病院の将来のビジョン」についてお伝えします。



市立病院

新医療センターのイメージ

「新医療センター」が 目指すもの

国民の三大死因である、がん、心臓病（心筋梗塞や心不全）、脳卒中。これらの重篤な病気にかかる人はストレス、糖尿病や生活習慣病などが原因で年々増加していますが、特に心臓病や脳卒中の治療は多くの場合、一分一秒を争う緊急の処置が必要です。

市立病院ではこれらの病気に今まで以上に迅速に対応できる施設を整備するため、病院敷地内に新医療センター（仮称）脳・心臓血管センターを設置する計画を検討しています。

施設整備で さらなる発展を

市立病院が新築されて5年が経過しました。一時は産婦人科



高元俊彦病院長



緊急対応も多い心臓カテーテル検査

が閉鎖されたり、内科や外科系の先生方が不足し、日常診療にも支障をきたすような状況でした。しかし、この5年間の努力によって市立病院の運営は大きく改善されてきました。

産婦人科には熟練した医師5名が勤務。年間約600人に達する安全なお産を市民の皆さんにお約束し、その課題を達成しました。また、新たに救急診療科専属のスタッフとして、2人目の医師が着任し、救急患者の受け入れに一層努めています。しかしながら、これからの5年先を見通すとき、現状の施設ではこれ以上の発展は望まれません。できるだけ早く、より充実した医療施設を建設すべきであると考え、設置者である草加市と検討を進めているところで

救急医療に特化した 複合施設

新しい施設は現在のところ、多面的な機能を持つ救急医療に特化した複合施設として検討を進めています。まずその1つとして、1階には小児時間外休日救急診療所を設置する予定です。ここでは地元医師会の先生方のご協力により、午後10時頃まで

新型インフルエンザ対策

エアテント を設置

市立病院では新型インフルエンザ対策として、感染の疑いがある人を診療するエアテント（下写真）を病院東側駐車場スペースの一角に設置しています。



外来診療で来院した患者さんや院内への感染を防止する役割を果たすものですが、今後はより快適な陰圧室を備えたプレハブ施設の設置を検討しています。

重症患者専用のスペースで 迅速な治療を

「新医療センター」はいわば「重症疾患の救急センター」です。

救急隊からの連絡が入り次第、担当医師が救急隊員と緊密な連絡を取り合い、患者さんの症状を判断し、狭心症や心筋梗塞、また脳梗塞や脳出血などの一刻を争う疾患に対応します。検査や処置が最短の時間で実施されるよう十分なスタッフを配置し、血管撮影装置や人工呼吸器、ガス分析器など高度な検査機器が配置された専用の治療室を整備する予定です。

現在の病院施設にも6床のICU（集中治療室）が設置されていますが、今後増加する心筋梗塞や脳卒中などの疾患に迅速に対応する施設として十分とは言えません。専門スタッフのもとで先進的な治療を提供できる専用スペースの整備が必要であると考えています。

このような施設の設置により、患者さんの救命に大きく貢献することが期待されます。